

若年者の学校から職業への移行に関する分析

佐藤 純恵

学校卒業後の進路として、就職が決まったかどうか、あるいは正社員かそうでないかということは、その後の人生において格差を生じさせるため、学校から就職へのスムーズな移行は重要である。本稿では、LOSEF 学生調査を用いて、新規学卒者の卒業後の進路の決定要因について学生時代の過ごし方に着目し、分析を行った。その結果、第 1 に卒業後の進路の決定に関して、家庭環境の影響はあまりみられないが、全体や男性のみの結果では、世帯収入の高い家庭は有意であった。また 4 年制大学の男子学生は、父親が高学歴である場合、就職の決定確率を低下させることが明らかになった。第 2 に学生生活や学業に関しては、勉強が好きということだけでは就職に有利とはならず、反対に勉強が好きであることは就職の決定確率を低下させる結果となった。しかし、充実した学生生活を送った学生の就職決定確率は大きく高まることが明らかになった。また資格を取得していても就職には有利とならないが、TOEIC を受験している学生の就職の決定確率が高くなることがわかった。そして第 3 に学生のメンタルヘルスが悪いと就職決定確率が低下することが確認できた。